

森と県民を結ぶ「埼玉の木の銀行構想」プラットフォーム形成調査 事業概要

1. 「埼玉の木の銀行構想」が目指すもの **事業モデルの構築**

(1)ねらい

- ・ 県産材の付加価値を高め、県産木材の利用推進と森林保全を図る。
- ・ 「顔の見える流通」として、製材所と設計者・工務店を直接結びつける仕組み構築。

(2)「顔の見える流通」における位置づけ

- ・ 第1ステップは、県産木材の産地の製材所・加工所等の生産者と設計者・工務店・エンドユーザー等の利用者を直接結びつける仕組みとして位置づける。
- ・ 第2ステップにおいて、県産木材の利用の推進と森林保全を結びつける仕組みを補完して、森林の伐採と造林、木材の生産・流通・利用を支えるトータルな仕組みとする。

(3)基本機能

情報発信と顧客開発、 製品開発と品質認証、 森林再生との連携

2. 今後の展開 **「県産木材展示販売実験事業」の提案**

(1)実験事業のねらい

- ・ 県産木材展示販売拠点施設の事業可能性、関係各主体の役割分担等を検証する。

(2)実験事業の内容(例)

- 「伐り旬の木の家共同募集事業」テーマ:スローな家づくり(一般ユーザー向けイベント)
- 「県産材情報発信事業」(一般の設計者・工務店向け情報発信)

